

7月18日（月）の神奈川新聞に曾我小学校の田植えの様子が紹介されました！

「田植えマシン」を頼りに苗を植える



■ 小田原市立曾我小学校 (小田原市曾我)



5、4年に続き6年が苗を植え切る

どろんこ田に人の絆

「苗を3本持ちまして、右、左、真ん中！」。伝統の「曾我小どろんこ田」での田植えの授業が始まった。5年生、4年生、6年生の順で、苗を植えていく。

「去年より、水が少なくて植えやすそうね」と、手伝いに来た保護者が気付く。「水が抜けないように、板を使って壁を作っておいたんだよ」と地域の協力者。たくさん大人の支えもあって、準備は万端だ。

最初は5年生。苗床を運ぶのも、植える間隔のガイドとなる「田植えマシン」を田んぼに運び入れるのも5年生の役割だ。用具の運搬をききと終え、田植えが始まる。田植え2年目で、初めての4年生にも思いをはせていた。

「分らないことがたくさんあるんじゃないかな？」。私たちで教えてあげようよ！。前日、教室を訪れ、田植えの仕方を伝授した。

次は4年生。5年生のおかげもあって、田植えの手が止まらない。「そろそろ終わりますよ」と先生が声を掛ける

も、「まだやりたい！」と名残惜しげだ。

いよいよ最後は6年生。「結構残ってるな」「頑張らなっちゃ」とやる気十分だ。「このままじゃ、時間内に終わらそうもないな」「だったら、反対側からも植えていこう！」。自分たちで判断し、二手に分かれる。最上級生の誇りを胸に、小学校生活最後の田植えを進める様子が頼もしい。「以前は大人たちが結構手伝っていたんですけど、ここ数年は、子どもたちが自分から進めていくんですよ」と校長先生は語る。

「一歩下がって、サッサッ！ マシンを持って、せーの1回！」。曾我の大地に響き渡る6年生の掛け声。あつという間に苗を植え切る。人と人との絆がたくさんつまった「曾我小どろんこ田」。お米を食べる日が、今から待ち遠しい。

(左) さまざまな教室から、県教育委員会の指導主事や先生らで構成する「学び見守り隊」がリポート



いのち学びつなぐ10周年
いのちの授業大賞
「いのちの授業」や「大人への思いやり」を学ぼう、伝えよう。

神奈川県教育委員会では、学校、家庭、地域などにおいて、子どもが大人と一緒に「いのち」に関わる中で、感じたことや考えたことを書いた作文を募集しています。「いのちの授業」の取り組みは左記QRコード参照。